

製品名: XIAP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19954**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	57kDa

抗原情報

遺伝子名	XIAP XIAP; API3; BIRC4; IAP3; E3 ubiquitin-protein ligase XIAP; Baculoviral IAP repeat-containing
別名	protein 4; IAP-like protein; ILP; hILP; Inhibitor of apoptosis protein 3; IAP-3; hIAP-3; hIAP3; X-linked inhibitor of apoptosis protein; X-linked I
遺伝子 ID	331.0
SwissProt ID	P98170
免疫原	抗血清はヒト XIAP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 53-102

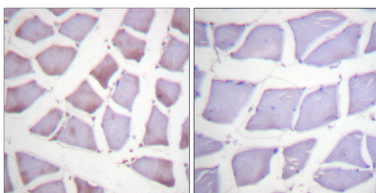
背景

この遺伝子は、アポトーシス抑制タンパク質ファミリーに属するタンパク質をコードしています。このファミリーのメンバーは、パキュロウイルス IAP リピートと呼ばれる保存モチーフを共有しており、これが抗アポトーシス機能に不可欠です。このタンパク質は、腫瘍壊死因子受容体関連因子 TRAF1 および TRAF2 への結合を介して機能し、強力なフリーラジカル誘導因子であるメナジオンおよびインターロイキン 1 β 変換酵素によって誘導されるアポトーシスを阻害します。また、このタンパク質は、細胞死プロテアーゼであるカスパーゼファミリーの少なくとも2つのメンバー、カスパーゼ3およびカスパーゼ7を阻害します。この遺伝子の変異は、X連鎖リンパ増殖症候群の原因です。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。この遺伝子の擬似遺伝子は、2番染色体と11番染色体に存在する。[RefSeq 提供、2011年2月]、疾患: XIAP の欠陥は、X連鎖性リンパ増殖症候群2型 (XLP2) [MIM:300635]の原因である。XLPは、エプスタイン・バーウイルス (EBV) 感染に対する極めて感受性の高い稀な免疫不全症である。症状には、重度または致死的な単核球症、後天性低ガンマグロブリン血症、汎血球減少症、悪性リンパ腫などがある。、ドメイン: 最初の BIR ドメインは MAP3K7IP1 との相互作用に関与し、二量体形成に重要である。2番目の BIR ドメインはカスパーゼ3およびカスパーゼ7を阻害するのに十分であり、3番目の BIR はカスパーゼ9の阻害に関与している。SMAC および PRSS25 との相互作用は、第2および第3の BIR ドメインによって媒介されます。、機能: アポトーシス抑制因子。E3 ユビキチン-タンパク質リガーゼ活性を有します。カスパーゼ3、SMAC、AIFM1 などの標的タンパク質のプロテアソーム分解を媒介します。カスパーゼ3、7、9の阻害剤です。MAP3K7/TAK1 の活性化を媒介し、NF- κ B の活性化につながる。、オンライン情報: XIAP 変異 db, PTM: PKB/AKT によるリン酸化は XIAP をユビキチン化から保護し、タンパク質をプロテアソームによる分解から保護する。、PTM: アポトーシス細胞内でプロテアソームによってユビキチン化および分解される。、類似性: IAP ファミリーに属する。、類似性: 1つの RING 型ジンクフィンガーを含む。、類似性: 3つの BIR リピートを含む。、サブユニット: モノマーおよびホモダイマー。SMAC および PRSS25 と相互作用し、これらの相互作用はアポトーシス抑制活性を阻害する。MAP3K7IP1 および AIFM1 と相互作用する。SMAC との相互作用は、MAP3K7IP1 および AIFM1 の結合を阻害する。TCF25 と相互作用する。、組織特異性: 末梢白血球を除く普遍的に存在する。、

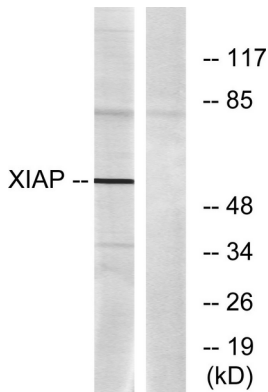
研究分野

ユビキチン媒介タンパク質分解、アポトーシス阻害、ミトコンドリアアポトーシス、アポトーシスの概要、接着斑、NOD 様受容体、がんの経路、小細胞肺がん、

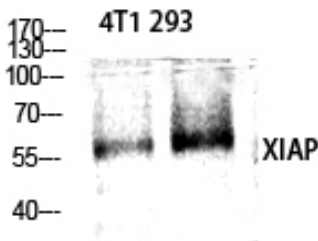
画像データ



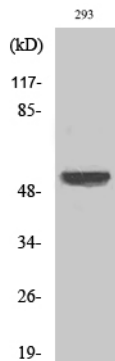
XIAP 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト骨格筋組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



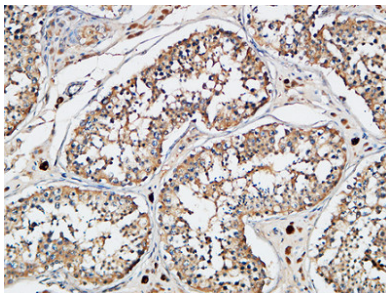
XIAP抗体を用いた293細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



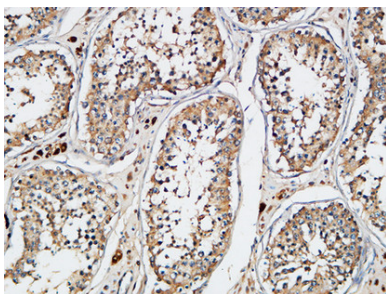
XIAPポリクローナル抗体を1:1000に希釈し、様々な細胞をウェスタンブロット分析した。二次抗体は1:20000に希釈した。



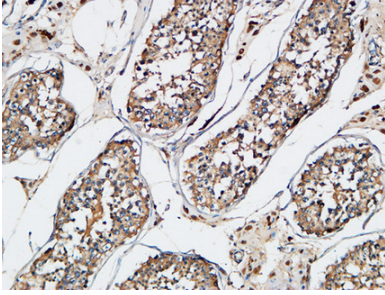
XIAPポリクローナル抗体を1:1000に希釈し、293細胞をウェスタンブロット分析した。二次抗体は1:20000に希釈した。



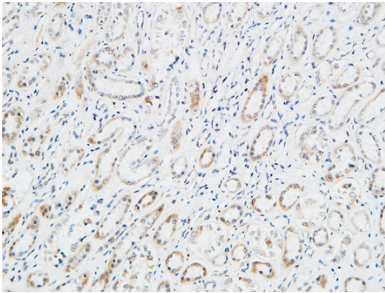
パラフィン包埋ヒト精巢の免疫組織化学分析。1、抗体を1:200に希釈した(4°、一晚)。2、高圧高温EDTA(pH8.0)を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を1:200に希釈した(室温、30分)。



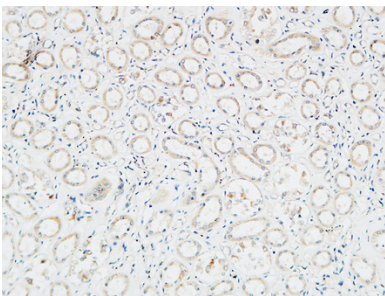
パラフィン包埋ヒト精巢の免疫組織化学分析。1、抗体を1:200に希釈した(4°、一晚)。2、高圧高温EDTA(pH8.0)を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を1:200に希釈した(室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。